

結果の概要

- 利用上の主な用語 -

行動者数.....過去1年間に該当する種類の活動を行った人(10歳以上)の数

行動者率.....行動者数の10歳以上人口に占める割合(%)

平均行動日数...・行動者について平均した過去1年間の行動日数

- 利用上の注意 -

- 1 ポイント差, 構成比等の比率は, 表章数値から算出している。
- 2 本文中の各活動の種類名については, 一部省略をしている。

1 インターネットの利用

(1) 男性の62.5%、女性の56.5%がインターネットを利用

過去1年間（平成17年10月20日～18年10月19日。以下同じ。）にインターネットを利用した人（10歳以上。以下同じ。）は6750万人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率。以下同じ。）は59.4%となっている。

男女別にみると、男性が3456万6千人、女性が3293万4千人となっており、行動者率は男性が62.5%、女性が56.5%で、男性が女性より6.0ポイント高くなっている。これを年齢階級別にみると、男性は15～19歳が88.2%、女性は20～24歳が92.3%と最も高く、これより年齢が高くなるにつれて行動者率は低下している。

行動者率は、仕事や学業での利用も含めた平成13年（46.4%）と比べても、13.0ポイント上昇しており、この5年間でインターネットの利用が広く国民生活に浸透したことを示している。（図1-1，図1-2）

図1-1
年齢階級別「インターネットの利用」の行動者率（平成13年，18年）

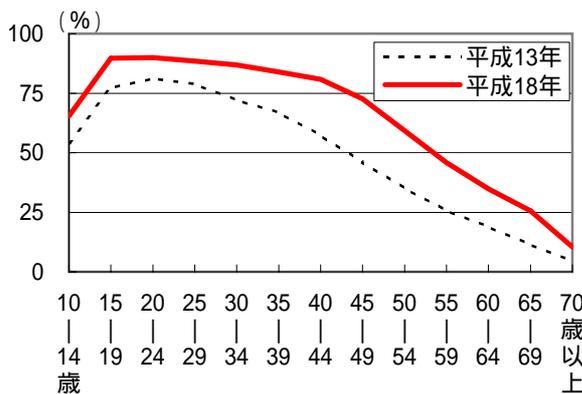
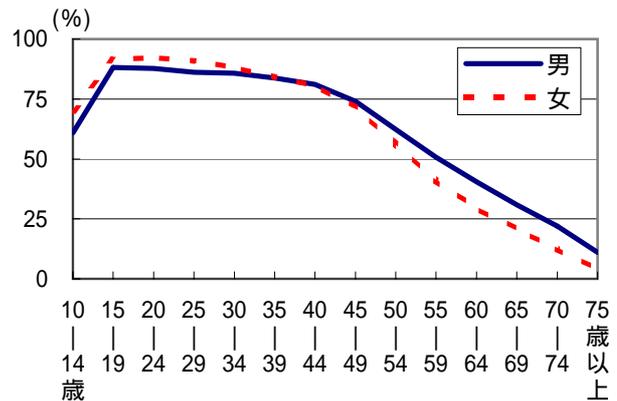


図1-2
男女，年齢階級別「インターネットの利用」の行動者率



注：平成13年は仕事や学業での利用を含む。

(2) 行動者率は「電子メール」が49.1%、「商品やサービスの予約・購入，支払いなどの利用」は23.5%

「インターネットの利用」の種類別に行動者率をみると、「電子メール」が49.1%と最も高く、次いで「情報検索及びニュース等の情報入手」が43.0%、「画像・動画・音楽データ，ソフトウェアの入手」が26.7%、「商品やサービスの予約・購入，支払いなどの利用」が23.5%、「掲示板・チャット」が11.7%、「ホームページ，ブログの開設・更新」が6.9%となっている。

男女別にみると、「ホームページ，ブログの開設・更新」を除き、いずれも男性の方が高くなっている。これを年齢階級別にみると、「電子メール」は男女共に15歳以上50歳未満の年齢階級で、「情報検索及びニュース等の情報入手」は男性が15歳以上50歳未満の年齢階級で、女性が15歳以上45歳未満の年齢階級で5割を超える行動者率となっている。また、「商品やサービスの予約・購入，支払いなどの利用」は20歳以上35歳未満の年齢階級で女性の方が高くなっている。（図1-3，図1-4）

注：「インターネットの利用」には仕事や学業などで利用したものを除く。

図1 - 3 男女, 「インターネットの利用」の種類別行動者率

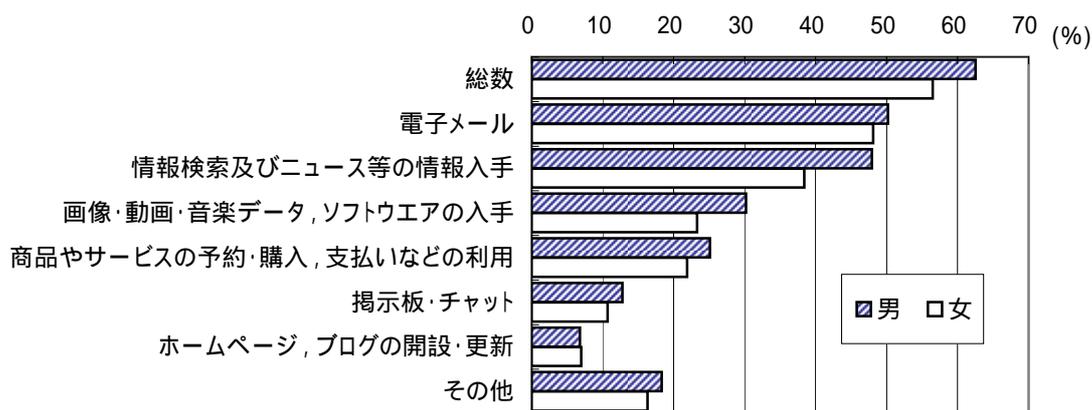
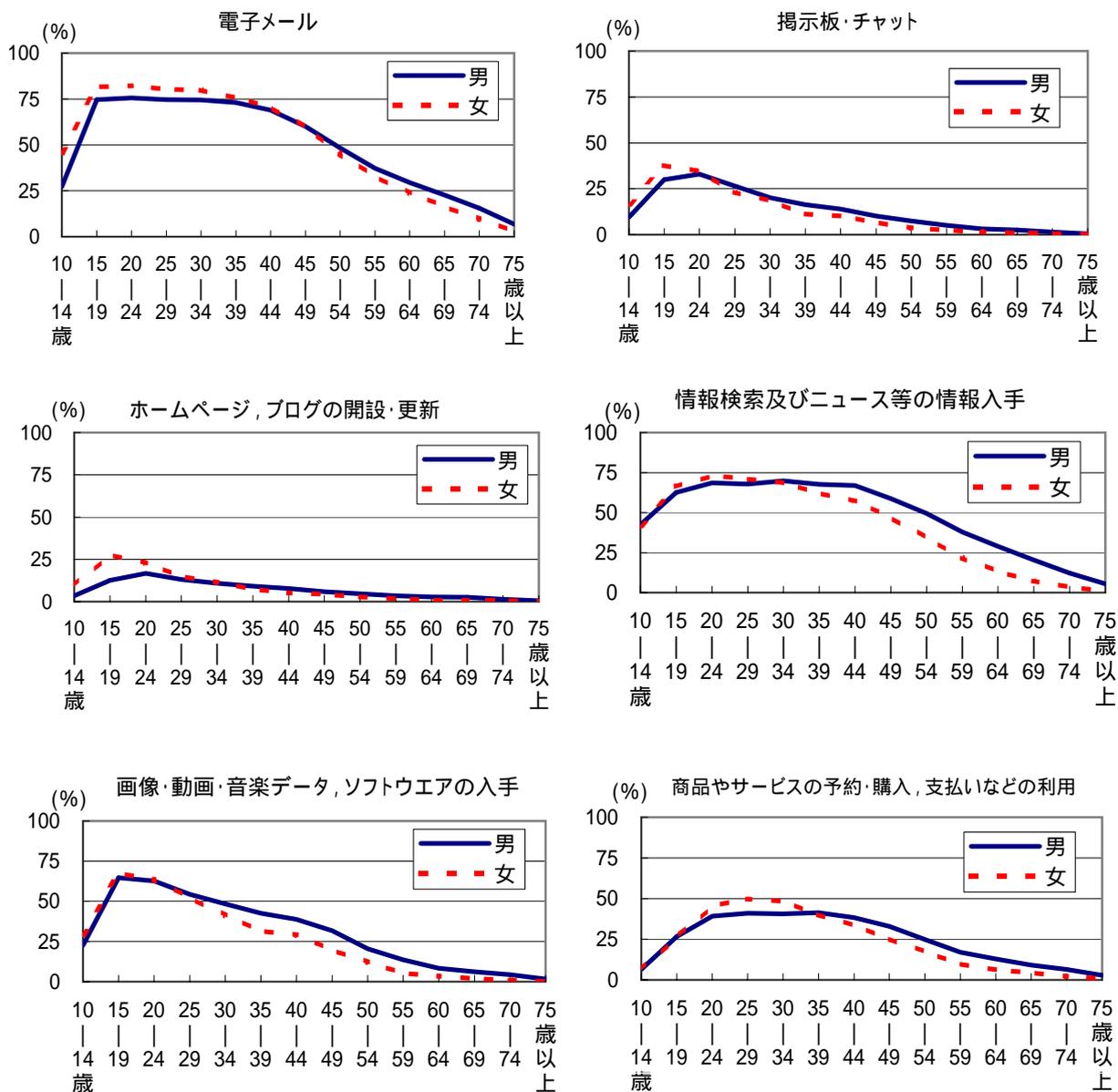


図1 - 4 「インターネットの利用」の種類, 男女, 年齢階級別行動者率

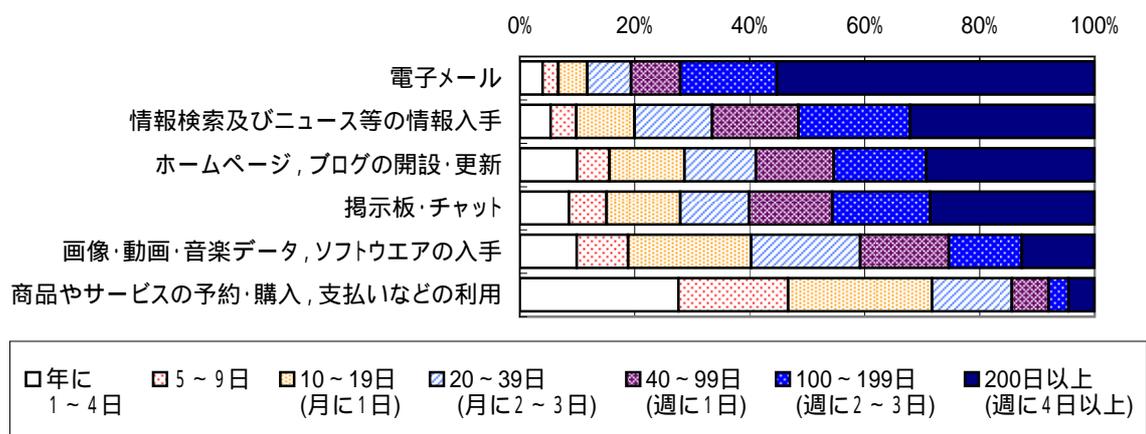


(3) 「電子メール」を利用している人の過半数が年に200日以上の利用

「インターネットの利用」の種類別に行動者の頻度別構成比をみると、「電子メール」は「年に200日以上（週に4日以上）」が最も多く、行動者の55.3%を占めている。（図1-5）

1年間の平均行動日数をみると、「電子メール」が190.5日と最も多く、次いで「情報検索及びニュース等の情報入手」が136.0日、「ホームページ、ブログの開設・更新」が122.4日、「掲示板・チャット」が122.3日、「画像・動画・音楽データ、ソフトウェアの入手」が75.0日、「商品やサービスの予約・購入、支払いなどの利用」が32.2日となっている。

図1-5 「インターネットの利用」の種類，頻度別行動者構成比

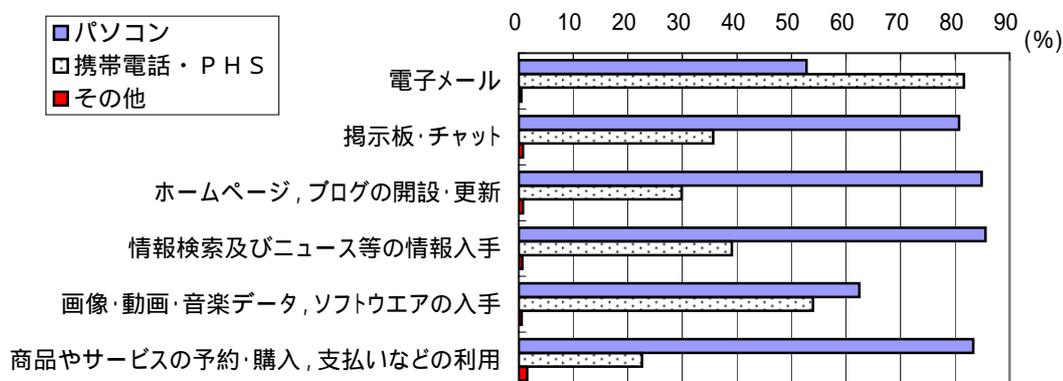


注：頻度不詳を除く。

(4) 利用の機器は「電子メール」が「携帯電話・PHS」，ほかは「パソコン」が多い

「インターネットの利用」の種類別に利用の機器をみると、「電子メール」は行動者の8割以上が「携帯電話・PHS」を，5割以上が「パソコン」を利用している。ほかはいずれも「パソコン」の利用が「携帯電話・PHS」を上回っている。（図1-6）

図1-6 「インターネットの利用」の種類，利用の機器別行動者割合



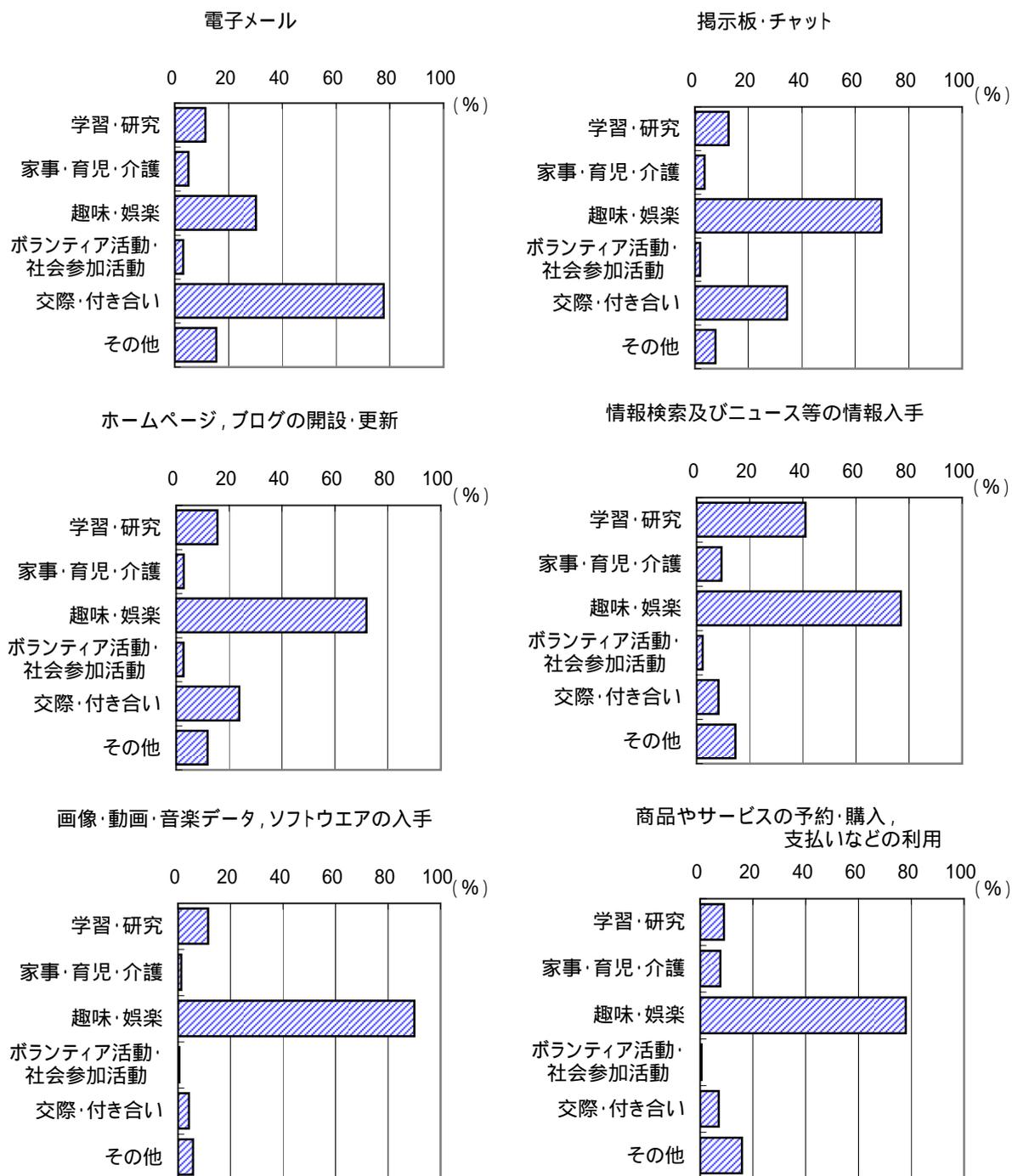
注：行動者割合は，種類ごとの行動者数に占める割合。複数回答あり。

(5) 利用の目的は「電子メール」が「交際・付き合い」，ほかは「趣味・娯楽」が最も多い

「インターネットの利用」の種類別に利用の目的をみると，「電子メール」は「交際・付き合い」が約8割と最も多く，ほかはいずれも「趣味・娯楽」が最も多くなっている。

なお，「情報検索及びニュース等の情報入手」では「学習・研究」が約4割となっている。（図1 - 7）

図1 - 7 「インターネットの利用」の種類，目的別行動者割合

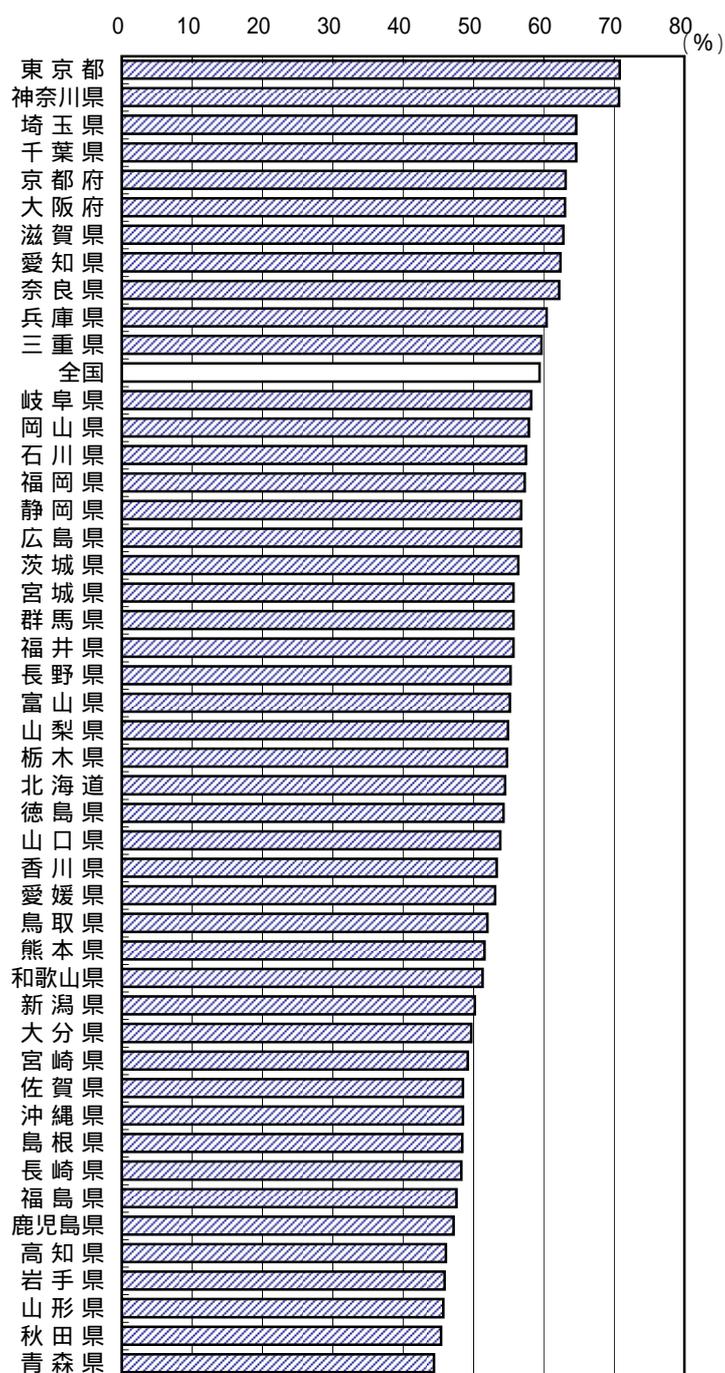


注：行動者割合は，種類ごとの行動者数に占める割合。複数回答あり。

(6) 東京都及び神奈川県は70%を超える行動者率

「インターネットの利用」の行動者率を都道府県別にみると、東京都が70.8%と最も高く、次いで神奈川県が70.7%などとなっている。(図1-8)

図1-8 都道府県別「インターネットの利用」の行動者率



2 学習・研究

(1) 1年間に「学習・研究」を行った人は3998万人、行動者率は35.2%

過去1年間に何らかの「学習・研究」を行った人は3998万人で、行動者率は35.2%となっている。男女別にみると、男性が1900万2千人、女性が2097万9千人となっており、行動者率は男性が34.4%、女性が36.0%で、女性が男性より1.6ポイント高くなっている。

行動者率は平成13年に比べ1.0ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が1.8ポイント低下、女性が0.2ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると、20～24歳が49.4%と最も高くなっており、45歳以上は年齢が高くなるにつれて低下している。これを男女別にみると、70歳以上を除くすべての年齢階級で女性の方が高くなっている。(図2-1, 図2-2)

図2-1 年齢階級別「学習・研究」の行動者率(平成13年, 18年)

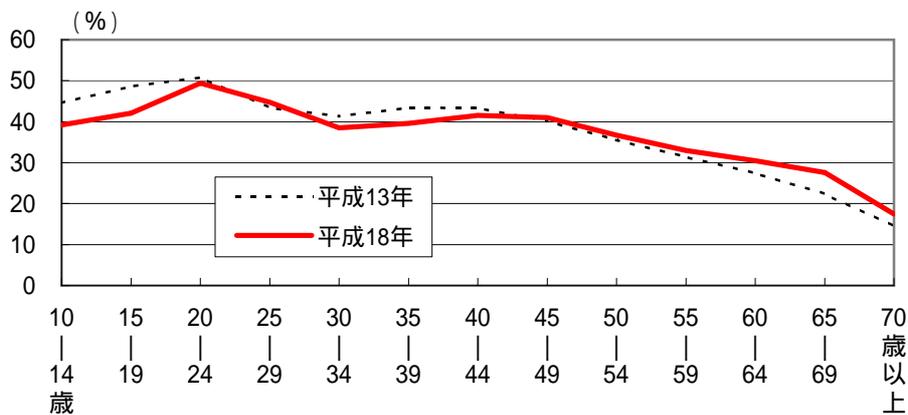
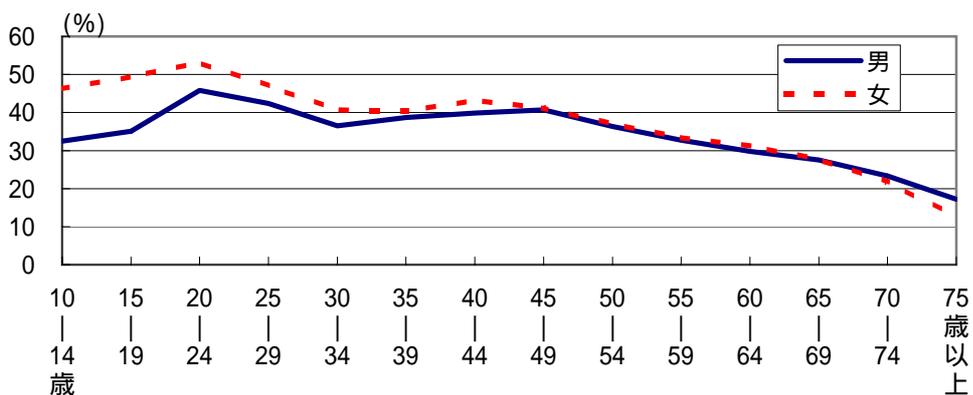


図2-2 男女, 年齢階級別「学習・研究」の行動者率



注: 「学習・研究」は、社会人の職場研修や、児童・生徒・学生が学業(授業, 予習, 復習)として行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

(2) 「パソコンなどの情報処理」は行動者率が低下

「学習・研究」の種類別に行動者率をみると、「パソコンなどの情報処理」が11.7%と最も高く、次いで「芸術・文化」が11.2%、「英語」が9.1%などとなっている。これを男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が14.6%と最も高く、次いで「商業実務・ビジネス関係」が11.1%、「人文・社会・自然科学」が9.9%などとなっている。女性は「家政・家事」が13.8%と最も高く、次いで「芸術・文化」が13.3%、「英語」が9.2%などとなっている。

平成13年と比べると、「パソコンなどの情報処理」が4.2ポイント低下、「芸術・文化」が1.7ポイント上昇などとなっている。(図2-3, 図2-4)

図2-3 男女、「学習・研究」の種類別行動者率

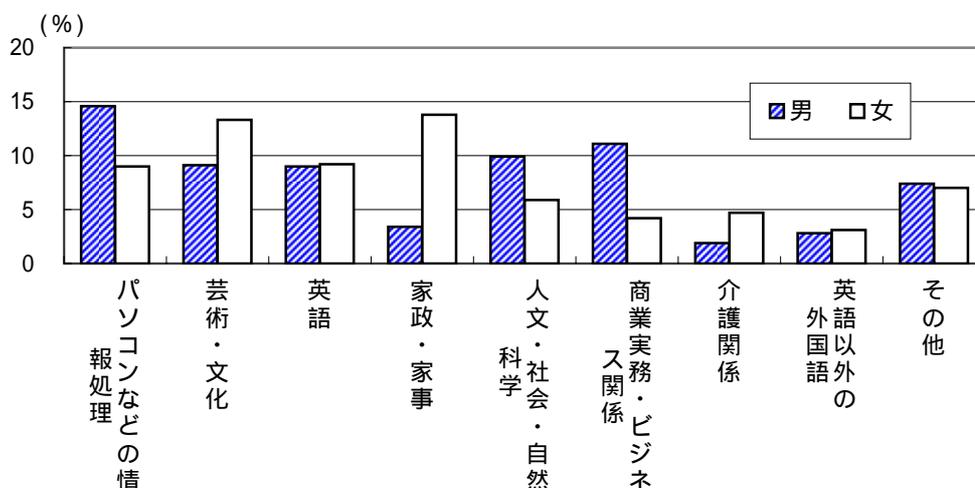
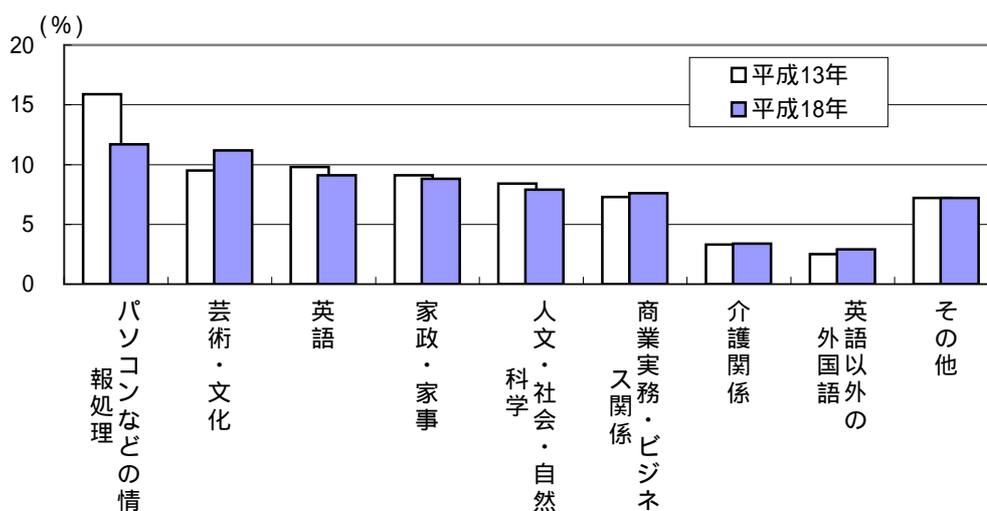


図2-4 「学習・研究」の種類別行動者率(平成13年, 18年)

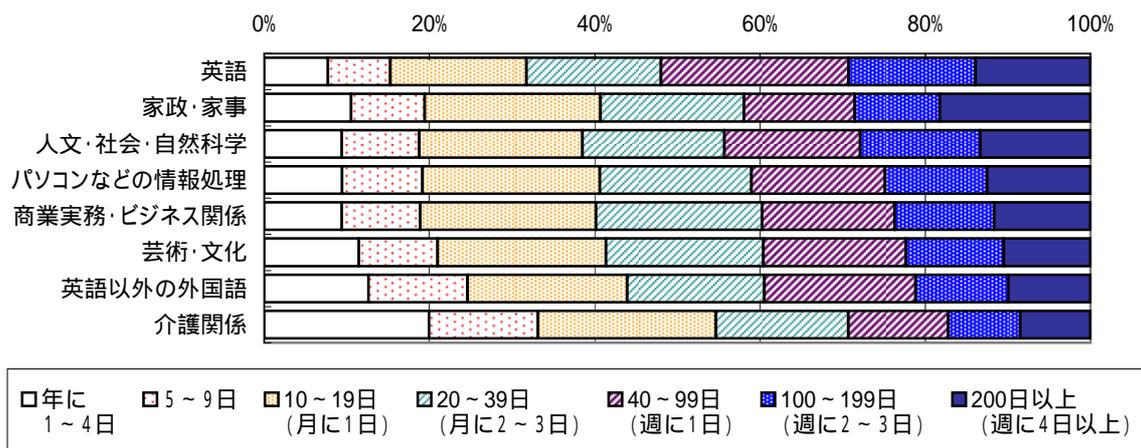


(3) 「英語」は週1日以上の頻度で学習する人が過半数

「学習・研究」の種類別に行動者の頻度別構成比をみると、「英語」は「年に40～99日（週に1日）」が最も多く、週に1日以上で学習する人が過半数を占めている。ほかはすべて「年に10～19日（月に1日）」が最も多くなっている。

1年間の平均行動日数をみると、「英語」が85.9日と最も多く、次いで「家政・家事」が85.3日、「人文・社会・自然科学」が79.6日などとなっており、最も少ないのは「介護関係」で54.7日となっている。（図2-5）

図2-5 「学習・研究」の種類，頻度別行動者構成比



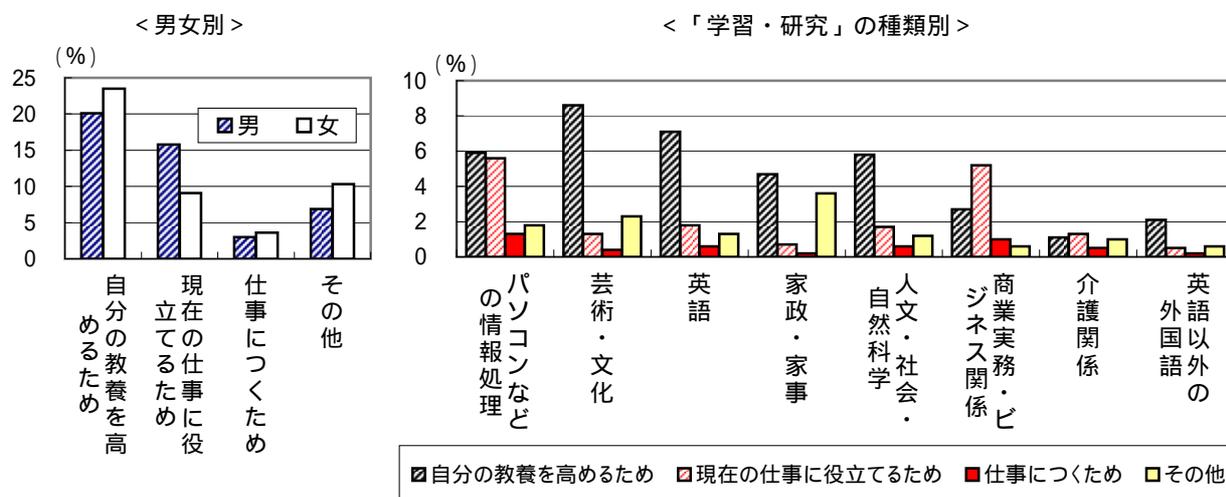
注：頻度不詳を除く。

(4) 「学習・研究」の目的は男女共に「自分の教養を高めるため」が最も高い

「学習・研究」の目的別の行動者率を男女別にみると、男女共に「自分の教養を高めるため」が最も高くなっている。

「学習・研究」の種類別にみると、「商業実務・ビジネス関係」及び「介護関係」は「現在の仕事に役立てるため」が最も高く、ほかはすべて「自分の教養を高めるため」が最も高くなっている。（図2-6）

図2-6 「学習・研究」の目的別行動者率



注：複数回答あり。

3 スポーツ

- (1) 1年間に「スポーツ」を行った人は7423万6千人，行動者率は65.3%で5年前より6.9ポイント低下

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人は7423万6千人で，行動者率は65.3%となっている。男女別にみると，男性が3893万3千人，女性が3530万3千人となっており，行動者率は男性が70.4%，女性が60.5%で，男性が女性より9.9ポイント高くなっている。

行動者率は平成13年に比べ6.9ポイント低下している。これを男女別にみると，男性が7.8ポイント低下，女性が5.9ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると，10～14歳が90.5%と最も高く，年齢が高くなるにつれておおむね低下している。これを男女別にみると，すべての年齢階級で男性の方が高くなっており，特に65歳以上で差が大きくなっている。（図3 - 1，図3 - 2）

図3 - 1 年齢階級別「スポーツ」の行動者率（平成13年，18年）

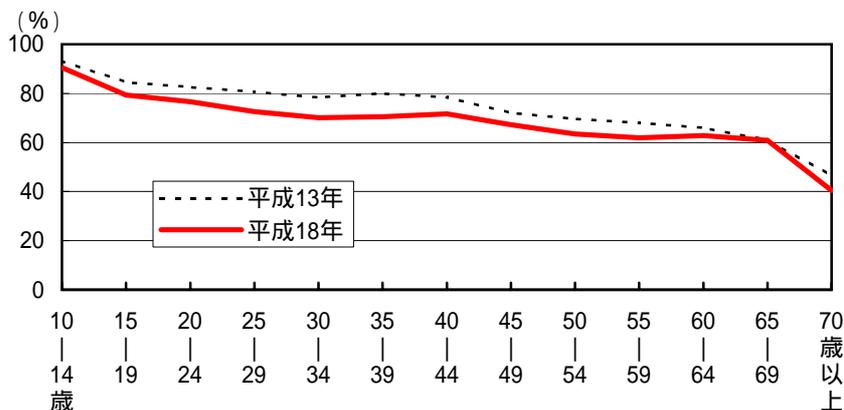
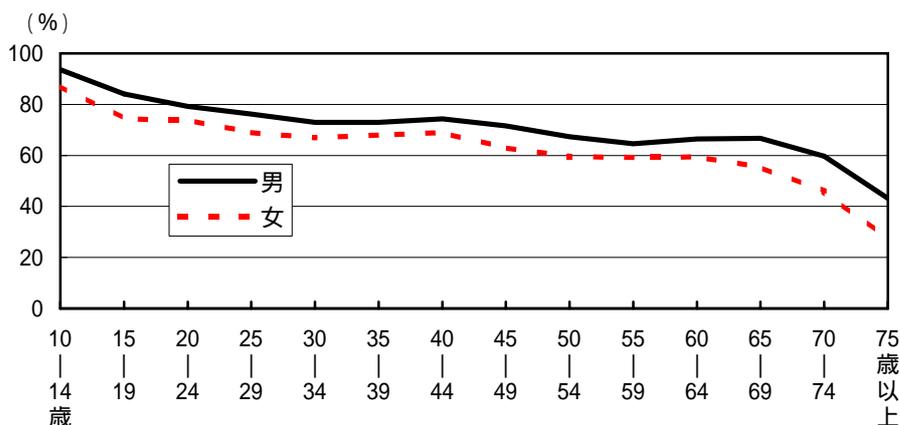


図3 - 2 男女，年齢階級別「スポーツ」の行動者率



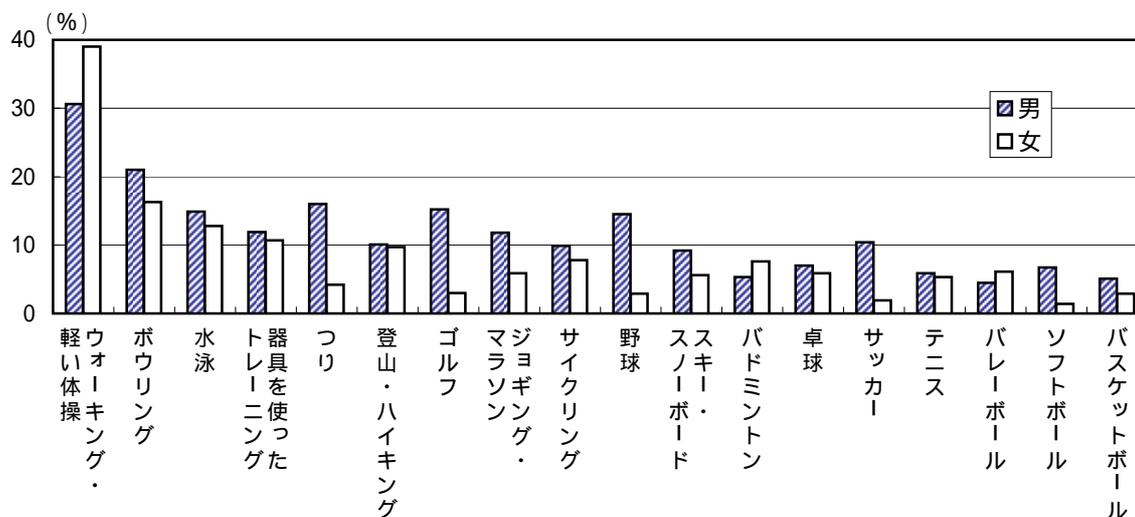
注：「スポーツ」には，職業スポーツ選手が仕事として行うものや，学生が体育の授業で行うものは除き，クラブ活動や部活動は含む。

(2) 行動者率は全体的に低下傾向

「スポーツ」の種類別に行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」が34.9%と最も高く、次いで「ボウリング」が18.6%となっている。これを男女別にみると、男女共に「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、次いで「ボウリング」となっており、以下、男性は「釣り」、女性は「水泳」などとなっている。

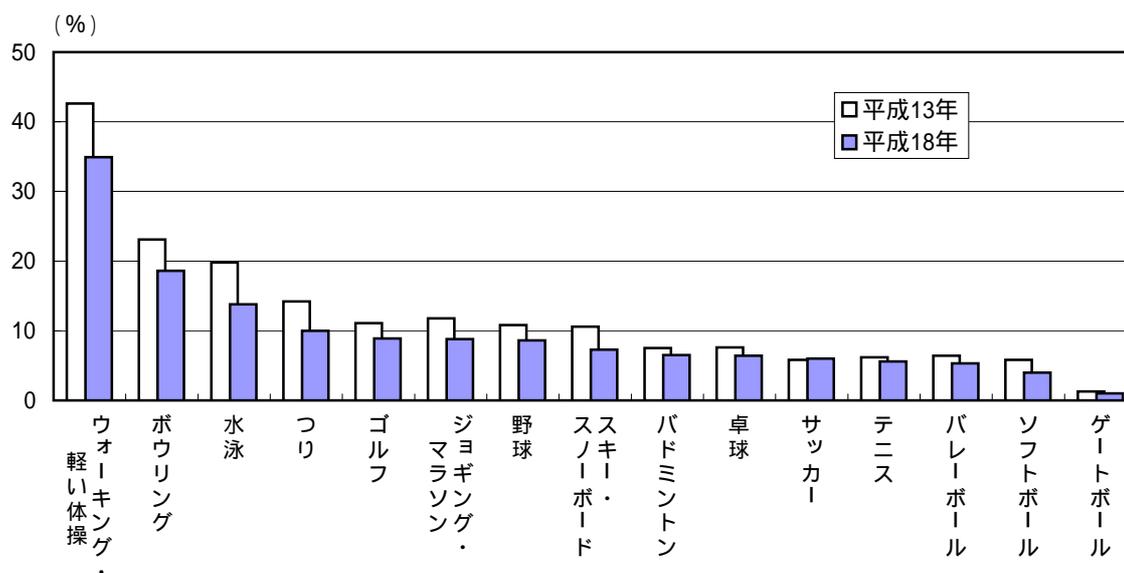
比較可能な「スポーツ」の種類について、平成13年と比べると、「ウォーキング・軽い体操」が7.7ポイント低下、「水泳」が6.0ポイント低下、「ボウリング」が4.5ポイント低下などとなっており、「サッカー」を除くすべての種類で行動者率は低下している。(図3-3, 図3-4)

図3-3 男女、「スポーツ」の種類別行動者率



注：行動者率が3%以上の種類を表章。

図3-4 「スポーツ」の種類別行動者率（平成13年，18年）

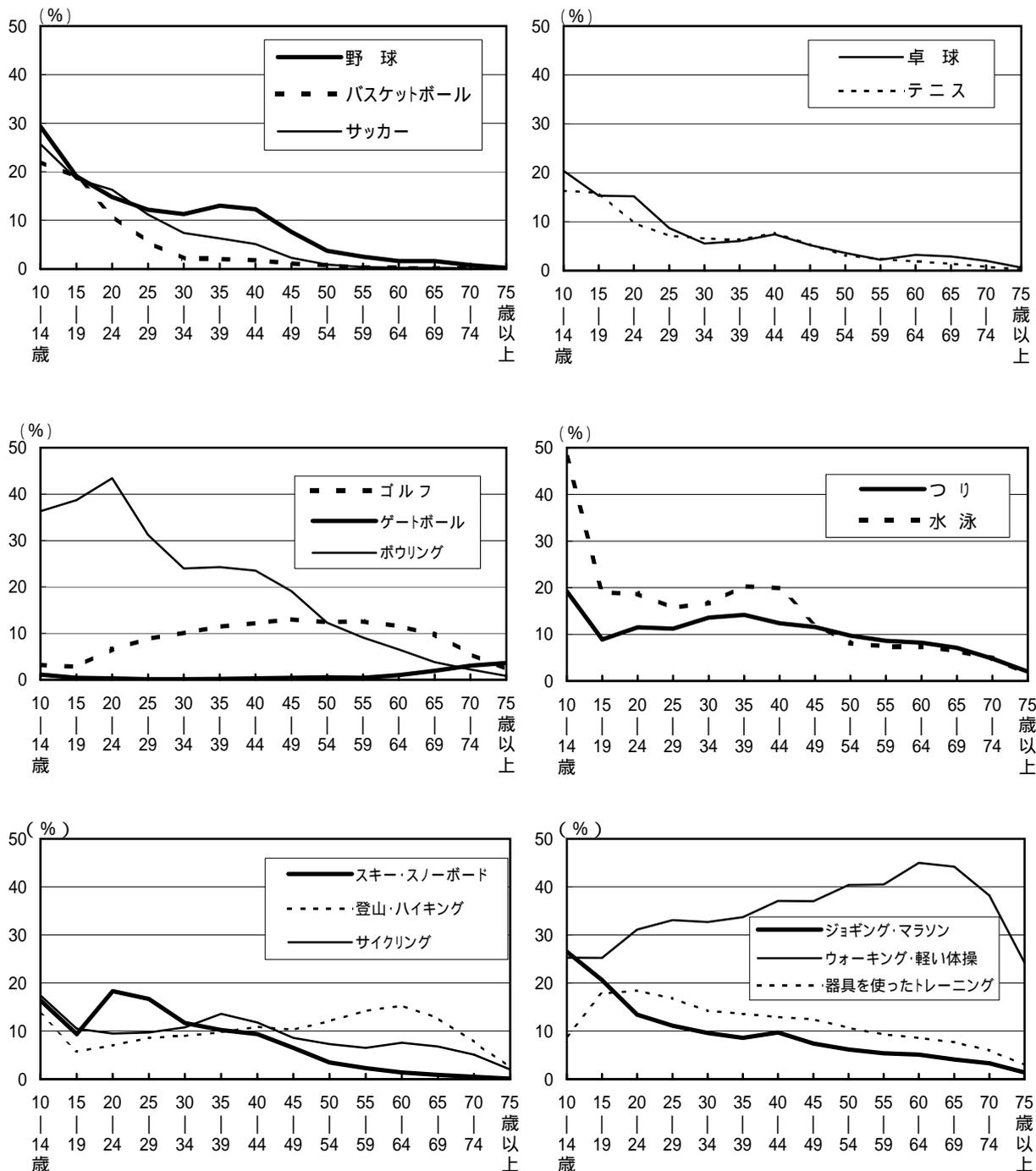


注：平成13年と比較可能な種類を表章。
「ウォーキング・軽い体操」の平成13年の調査項目名は「運動としての散歩・軽い体操」。

(3) 「水泳」などは10～14歳，「ウォーキング・軽い体操」などは60～64歳で行動者率が最も高い

主な「スポーツ」の種類別行動者率を年齢階級別にみると，「水泳」などは10～14歳，「ボウリング」，「スキー・スノーボード」などは20～24歳，「ゴルフ」は45～49歳，「登山・ハイキング」，「ウォーキング・軽い体操」は60～64歳，「ゲートボール」は75歳以上で最も高くなっている。（図3 - 5）

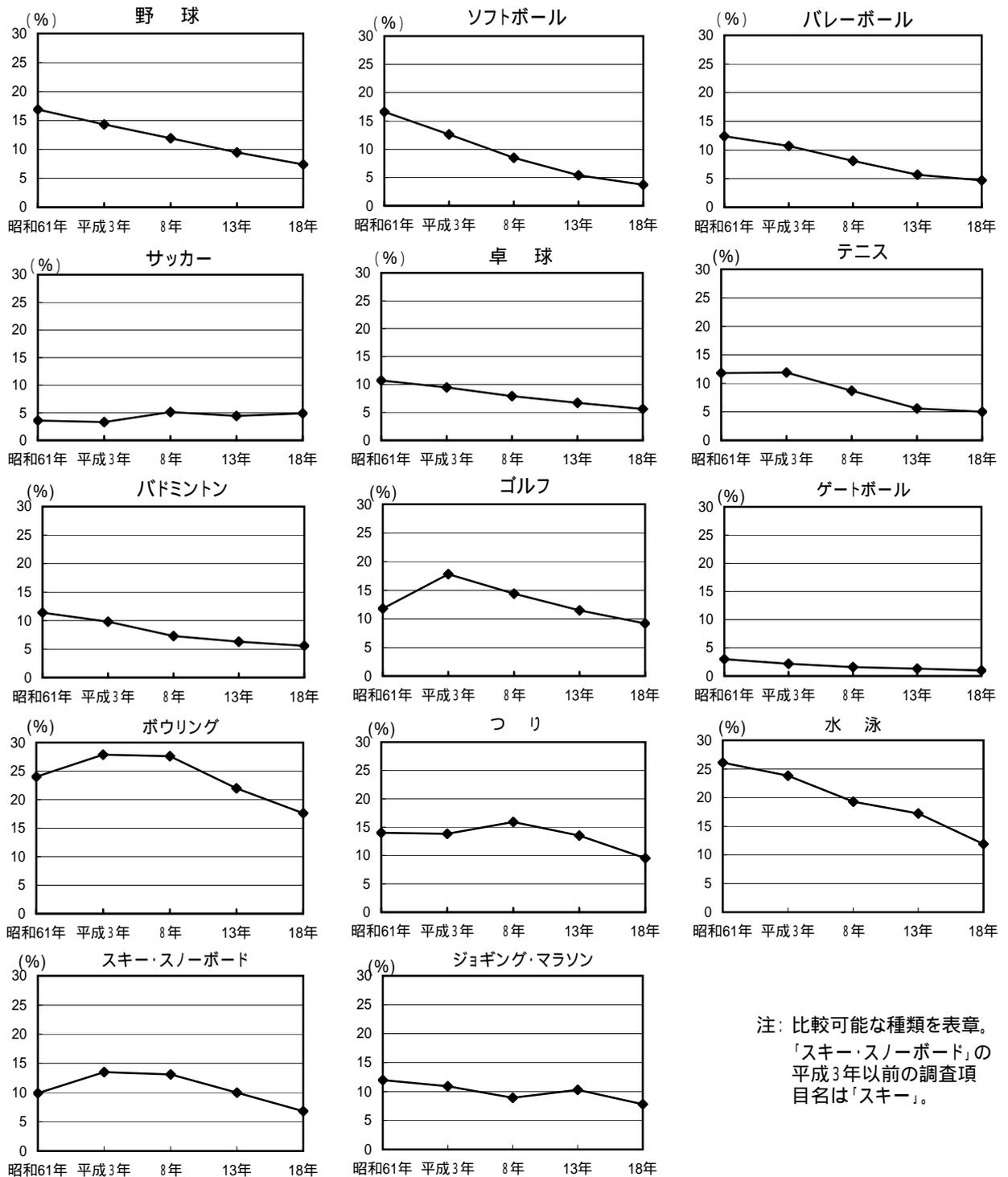
図3 - 5 主な「スポーツ」の種類，年齢階級別行動者率



(4) 過去20年間の推移をみると、全体的に低下傾向

過去20年間で比較可能な「スポーツ」の種類別の行動者率（15歳以上）の推移をみると、全体的に低下傾向にある。（図3-6）

図3-6 「スポーツ」の種類別行動者率の推移（15歳以上）



4 趣味・娯楽

(1) 1年間に「趣味・娯楽」を行った人は9646万4千人，行動者率は84.9%

過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は9646万4千人で，行動者率は84.9%となっている。男女別にみると，男性が4710万6千人，女性が4935万8千人となっており，行動者率は男性が85.2%，女性が84.6%で，男性が女性より0.6ポイント高くなっている。

行動者率は平成13年に比べ1.0ポイント低下している。これを男女別にみると，男性が1.1ポイント低下，女性が1.0ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると，10～14歳が94.0%と最も高く，年齢が高くなるにつれておおむね低下している。これを男女別にみると，65歳未満では女性の方が高く，65歳以上では男性の方が高くなっている。（図4-1，図4-2）

図4-1 年齢階級別「趣味・娯楽」の行動者率（平成13年，18年）

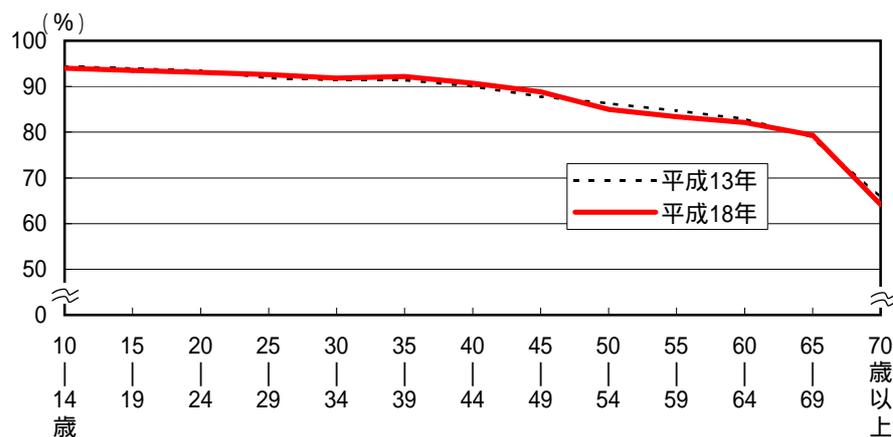
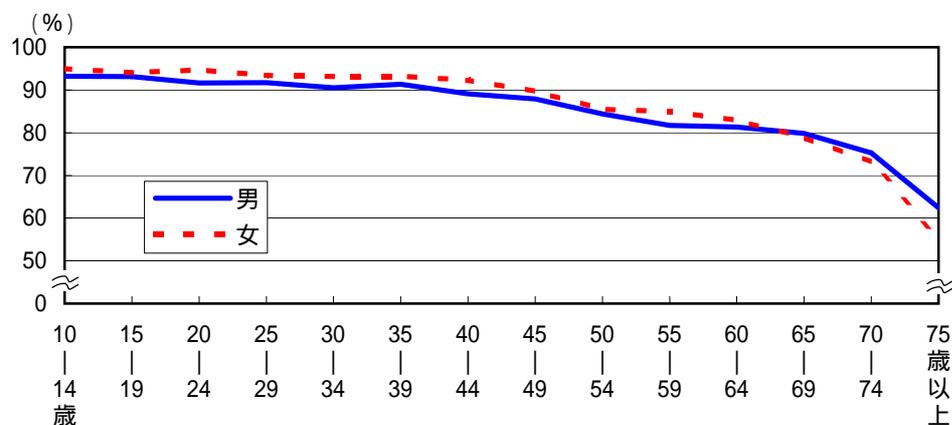


図4-2 男女，年齢階級別「趣味・娯楽」の行動者率



(2) 「テレビゲーム，パソコンゲーム」，「スポーツ観覧」，「映画鑑賞」などは行動者率が上昇

「趣味・娯楽」の種類別に行動者率をみると、「CDなどによる音楽鑑賞」が52.4%と最も高く、次いで「DVDなどによる映画鑑賞」が45.9%、「趣味としての読書」が41.9%などとなっている。これを男女別にみると、男性は「CDなどによる音楽鑑賞」が51.0%と最も高く、次いで「DVDなどによる映画鑑賞」が47.0%、「テレビゲーム，パソコンゲーム」が38.9%などとなっている。女性は「CDなどによる音楽鑑賞」が53.7%と最も高く、次いで「趣味としての読書」が46.8%、「DVDなどによる映画鑑賞」が44.8%などとなっている。（図4-3）

比較可能な「趣味・娯楽」の種類について、平成13年と比べると、「テレビゲーム，パソコンゲーム」が3.9ポイント上昇、「スポーツ観覧」が1.7ポイント上昇、「映画鑑賞」が1.5ポイント上昇などとなっている。一方、「カラオケ」が7.3ポイント低下、「園芸・庭いじり・ガーデニング」が4.3ポイント低下などとなっており、ほとんどの種類で行動者率が低下している。（図4-4）

図4-3 男女，「趣味・娯楽」の種類別行動者率

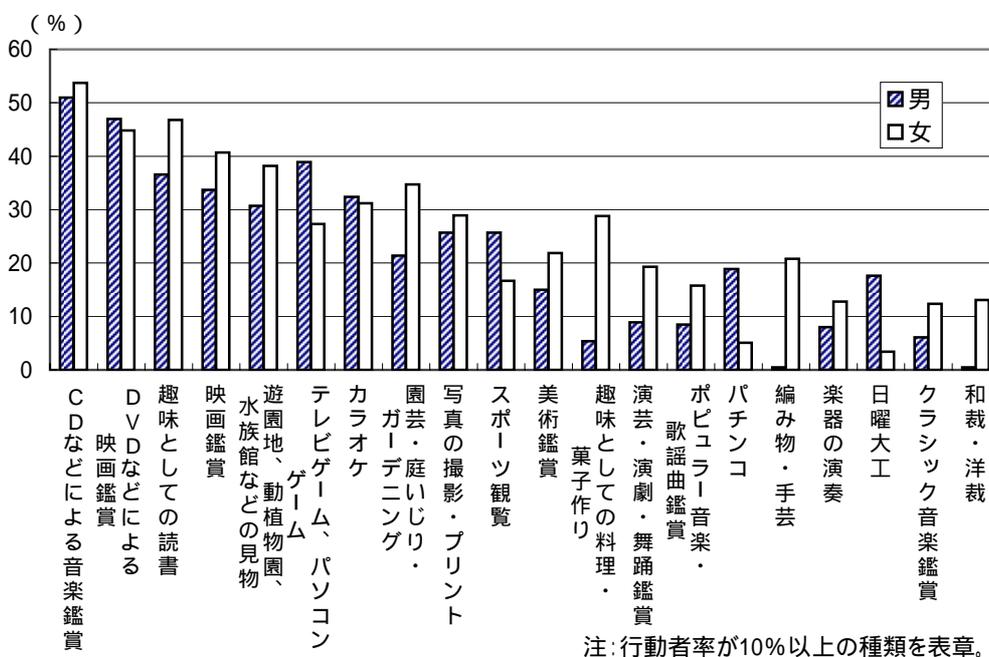
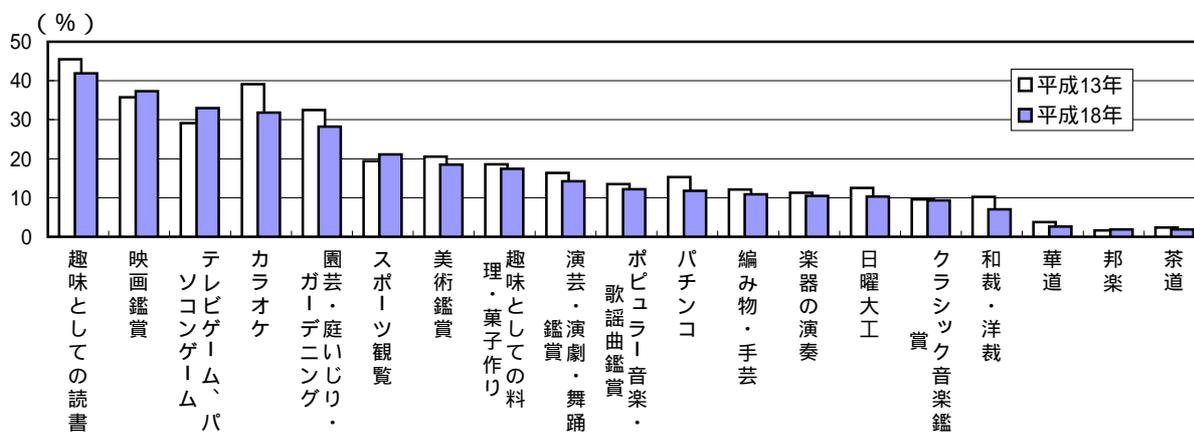


図4-4 「趣味・娯楽」の種類別行動者率（平成13年，18年）



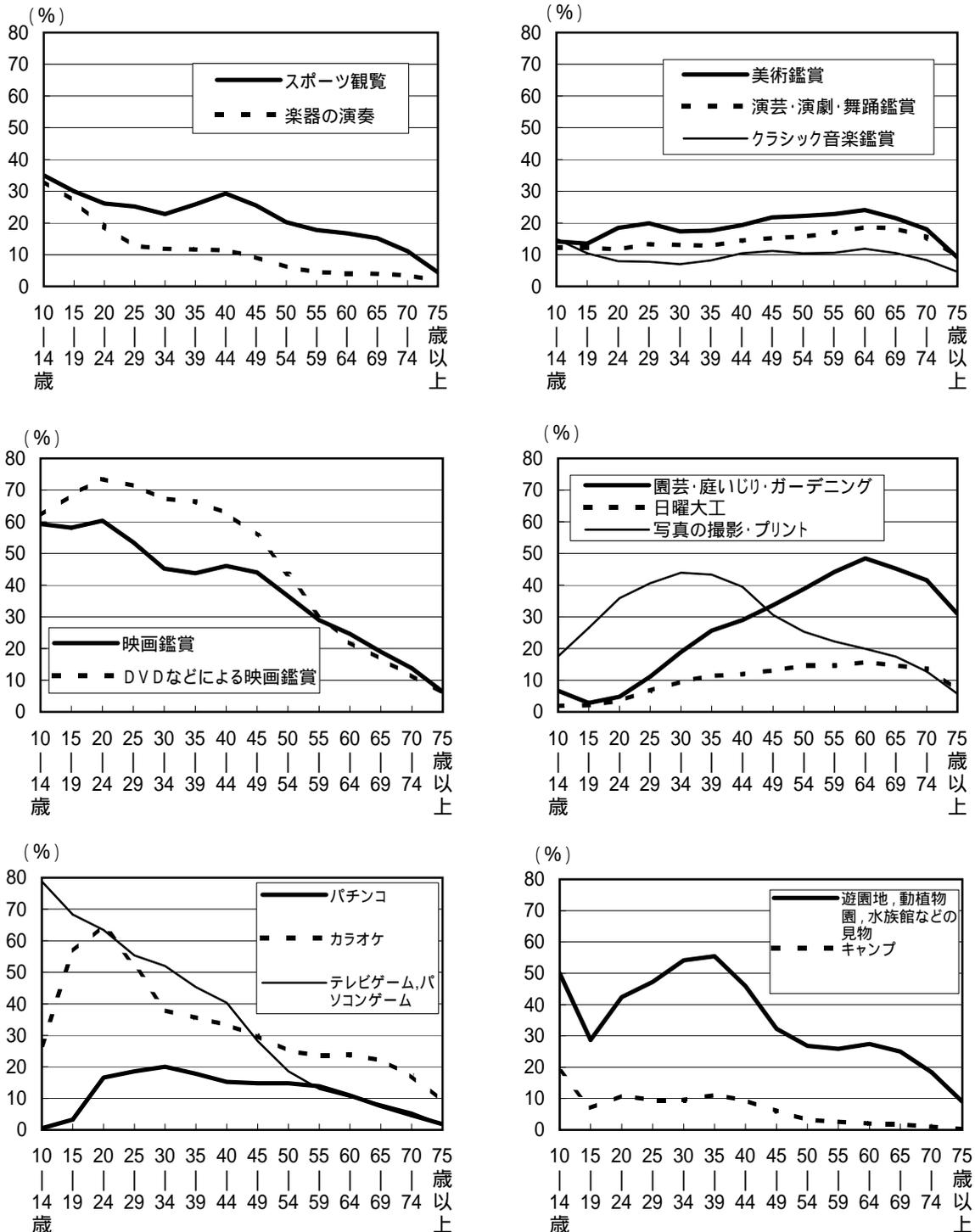
注：平成13年と比較可能な種類を表章。

「テレビゲーム，パソコンゲーム」の平成13年の調査項目名は「テレビゲーム」。

- (3) 「テレビゲーム、パソコンゲーム」などは10～14歳、「園芸・庭いじり・ガーデニング」などは60～64歳で行動者率が最も高い

主な「趣味・娯楽」の種類別行動者率を年齢階級別にみると、「テレビゲーム、パソコンゲーム」などは10～14歳、「映画鑑賞」、「カラオケ」などは20～24歳、「写真の撮影・プリント」、「パチンコ」は30～34歳、「園芸・庭いじり・ガーデニング」、「美術鑑賞」などは60～64歳で最も高くなっている。(図4-5)

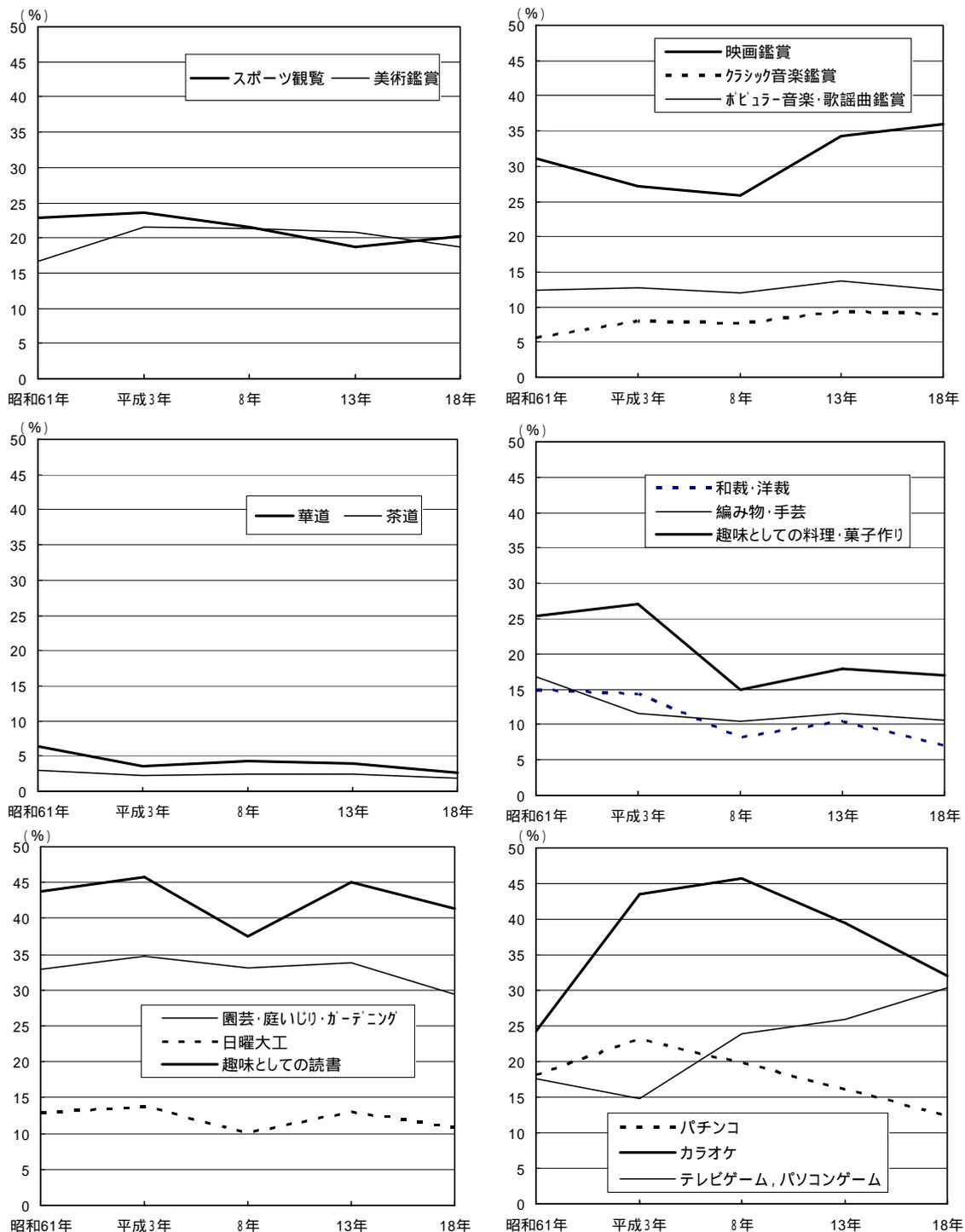
図4-5 主な「趣味・娯楽」の種類、年齢階級別行動者率



(4) 過去20年間の推移をみると、「テレビゲーム、パソコンゲーム」は大きく上昇、「カラオケ」、「パチンコ」は低下

過去20年間で比較可能な「趣味・娯楽」の種類別の行動者率（15歳以上）の推移をみると、「テレビゲーム、パソコンゲーム」は大きく上昇、「映画鑑賞」も上昇している。一方、「カラオケ」は平成8年をピークに低下、「パチンコ」は平成3年をピークに低下している。（図4-6）

図4-6 「趣味・娯楽」の種類別行動者率の推移（15歳以上）



注：比較可能な種類を表章。

「趣味としての料理・菓子作り」の平成3年以前の調査項目名は「料理・菓子作り」。

「テレビゲーム、パソコンゲーム」の平成13年以前の調査項目名は「テレビゲーム」。

5 ボランティア活動

- (1) 1年間に「ボランティア活動」を行った人は2972万2千人，行動者率は26.2%で5年前より2.7ポイント低下

過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は2972万2千人で，行動者率は26.2%となっている。男女別にみると，男性が1387万7千人，女性が1584万5千人となっており，行動者率は男性が25.1%，女性が27.2%で，女性が男性より2.1ポイント高くなっている。

行動者率は平成13年に比べ2.7ポイント低下している。これを男女別にみると，男性が1.9ポイント低下，女性が3.4ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると，40～44歳が33.6%と最も高く，25～29歳が15.8%と最も低くなっている。これを男女別にみると，60歳未満では女性の方が高く，60歳以上では男性の方が高くなっている。（図5 - 1，図5 - 2）

図5 - 1 年齢階級別「ボランティア活動」の行動者率（平成13年，18年）

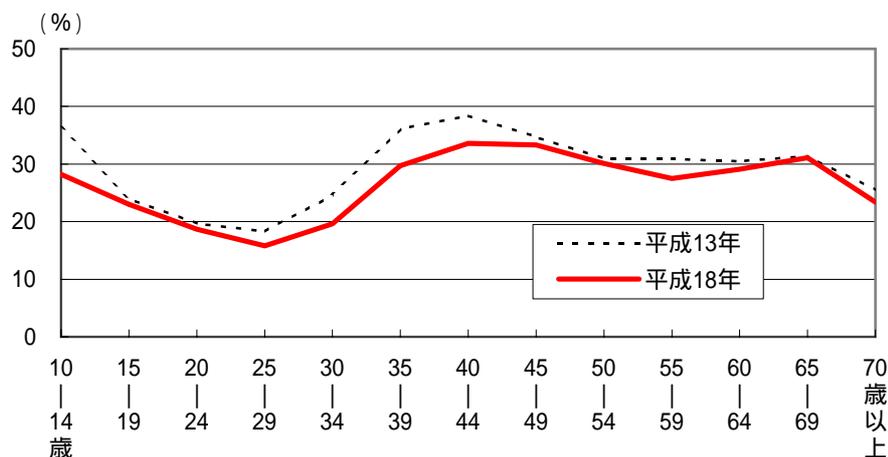
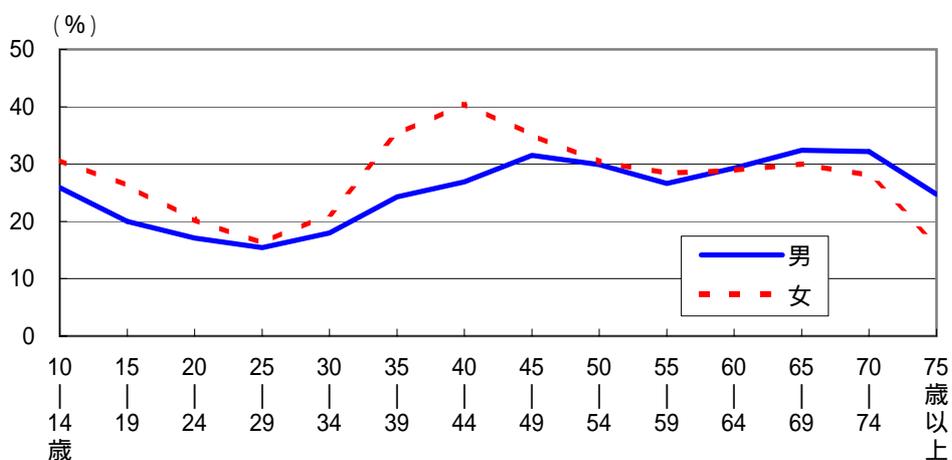


図5 - 2 男女，年齢階級別「ボランティア活動」の行動者率



(2) 行動者率は全体的に低下傾向

「ボランティア活動」の種類別に行動者率をみると、「まちづくりのための活動」が12.0%と最も高く、次いで「自然や環境を守るための活動」が6.5%、「子供を対象とした活動」が5.6%などとなっている。これを男女別にみると、男女共に「まちづくりのための活動」が最も高く、次いで男性は「自然や環境を守るための活動」, 「安全な生活のための活動」, 女性は「子供を対象とした活動」, 「自然や環境を守るための活動」などとなっている。

比較可能な「ボランティア活動」の種類について、平成13年と比べると、「子供を対象とした活動」のみ上昇している。(図5-3, 図5-4)

図5-3 男女, 「ボランティア活動」の種類別行動者率

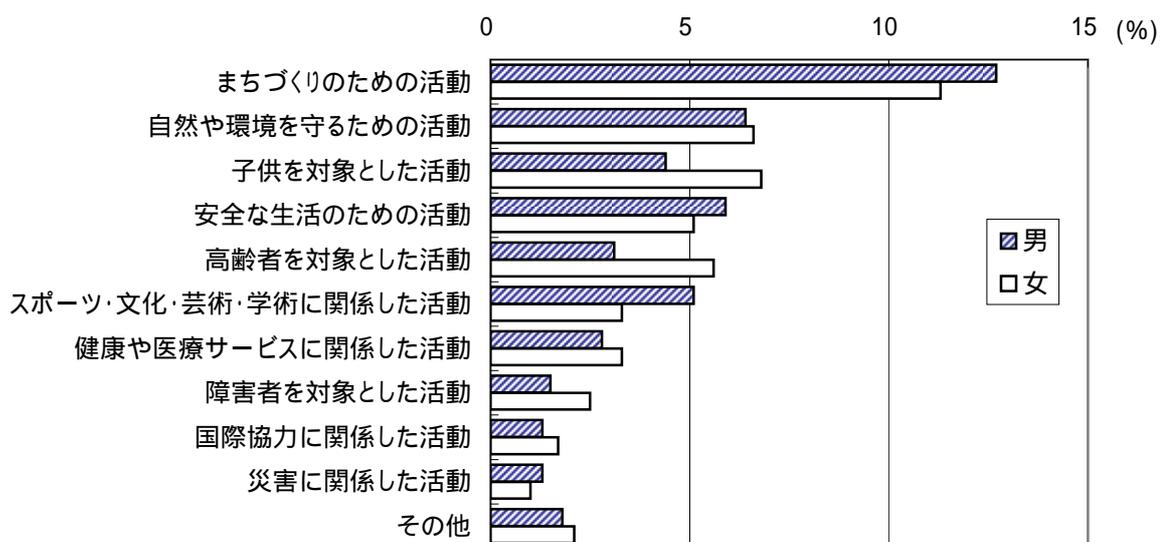
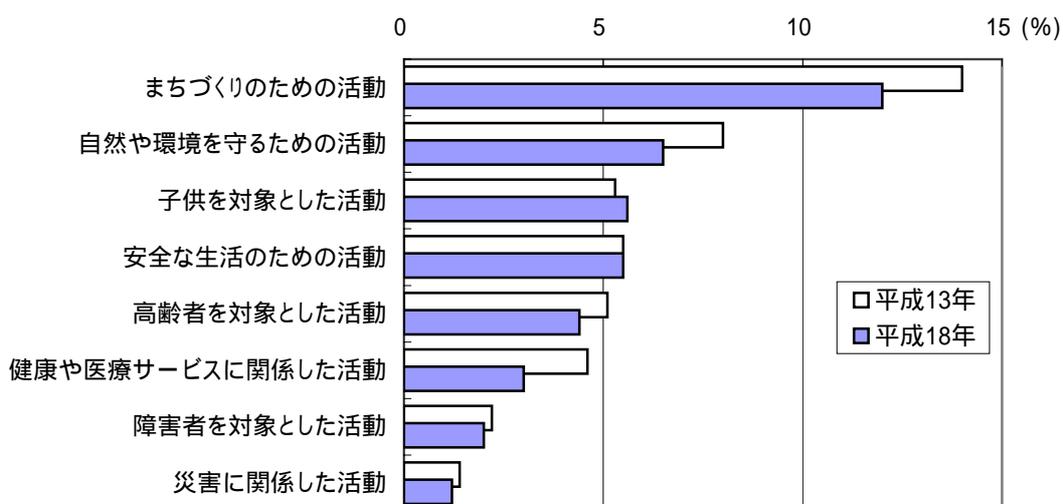


図5-4 「ボランティア活動」の種類別行動者率(平成13年, 18年)



注：平成13年と比較可能な種類を表章。

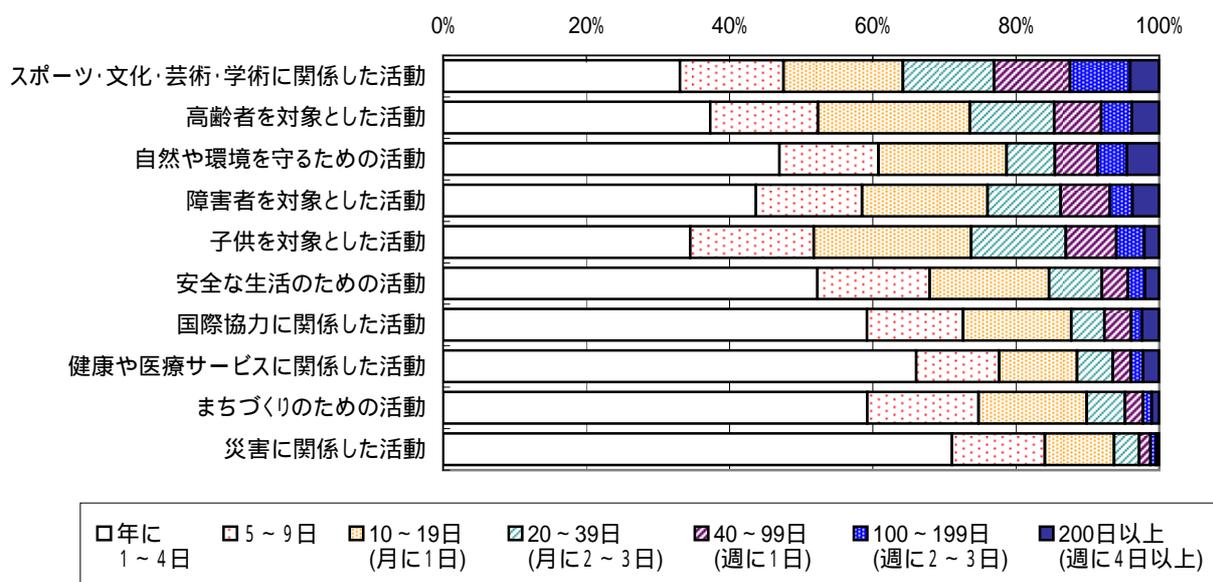
(3) 平均行動日数はすべての種類で増加

「ボランティア活動」の種類別に行動者の頻度別構成比をみると、いずれも「年に1～4日」が最も多くなっている。(図5-5)

1年間の平均行動日数をみると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関する活動」が39.4日と最も多く、次いで「高齢者を対象とした活動」が30.2日、「自然や環境を守るための活動」が29.7日などとなっており、最も少ないのは「災害に関する活動」で8.4日となっている。

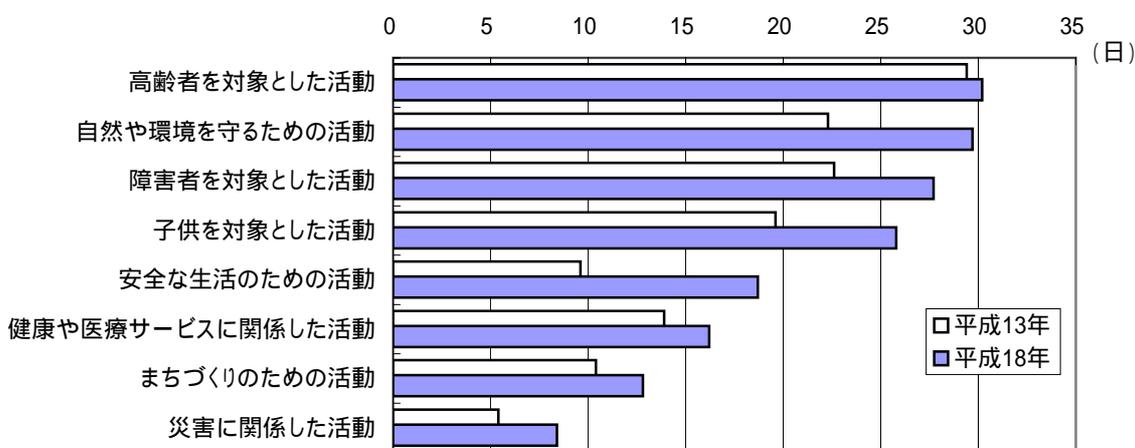
比較可能な「ボランティア活動」の種類について、平成13年と比べると、すべての種類で平均行動日数は増加している。(図5-6)

図5-5 「ボランティア活動」の種類、頻度別行動者構成比



注：頻度不詳を除く。

図5-6 「ボランティア活動」の種類別平均行動日数（平成13年，18年）



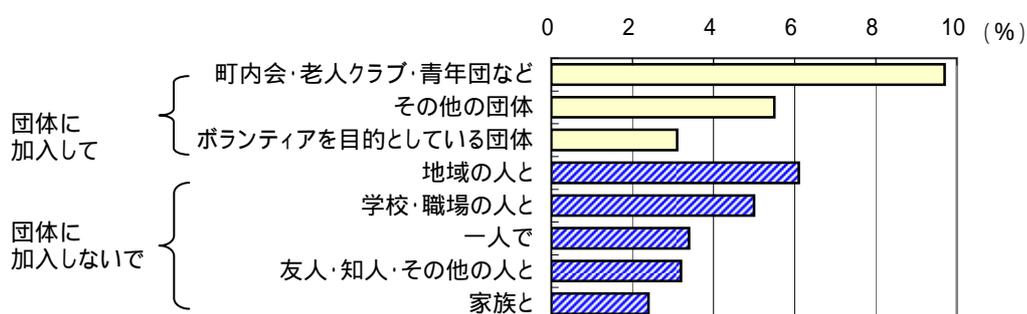
注：平成13年と比較可能な種類を表章。

(4) 「町内会・老人クラブ・青年団など」に加入しての活動の行動者率が最も高い

「ボランティア活動」の形態別に行動者率をみると、「町内会・老人クラブ・青年団など」に加入して行った活動が最も高く、次いで団体に加入しないで「地域の人と」行った活動などとなっている。(図5-7)

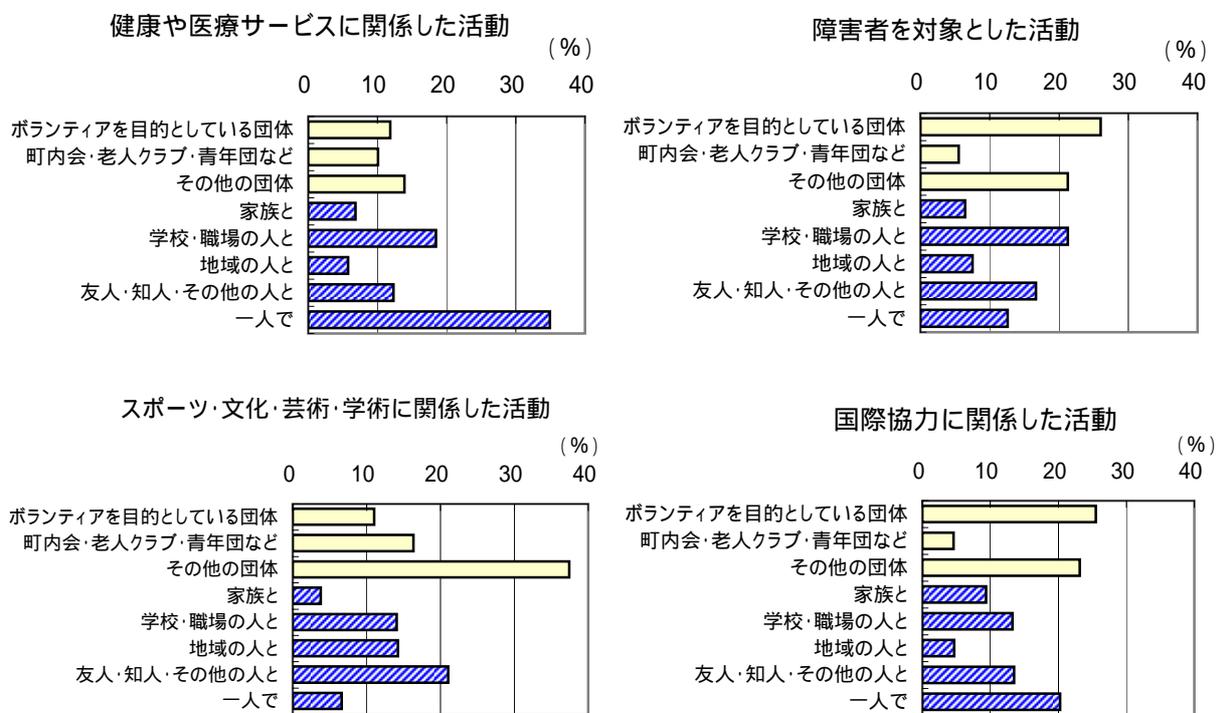
「ボランティア活動」の種類別に形態別の行動者割合をみると、「健康や医療サービスに関係した活動」は「一人で」が、「障害者を対象とした活動」及び「国際協力に関係した活動」は「ボランティアを目的としている団体」に、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」は「その他の団体」に加入して行った活動が最も高くなっている。なお、ほかは「町内会・老人クラブ・青年団など」に加入して行った活動が最も高くなっている。(図5-8)

図5-7 「ボランティア活動」の形態別行動者率



注：複数回答あり。

図5-8 主な「ボランティア活動」の種類，形態別行動者割合



注：行動者割合は、種類ごとの行動者数に占める割合。複数回答あり。
「町内会・老人クラブ・青年団など」に加入して行った活動が最も高い種類を除いて表章。

(5) 行動者率は、鳥取県、滋賀県及び島根県が高い

「ボランティア活動」の行動者率を都道府県別にみると、鳥取県が34.5%と最も高く、次いで滋賀県及び島根県が34.0%などとなっている。(図5-9)

また、都市階級別に行動者率をみると、小都市Bが31.0%と最も高く、次いで町村が30.5%などとなっている。(図5-10)

図5-9 都道府県別「ボランティア活動」の行動者率

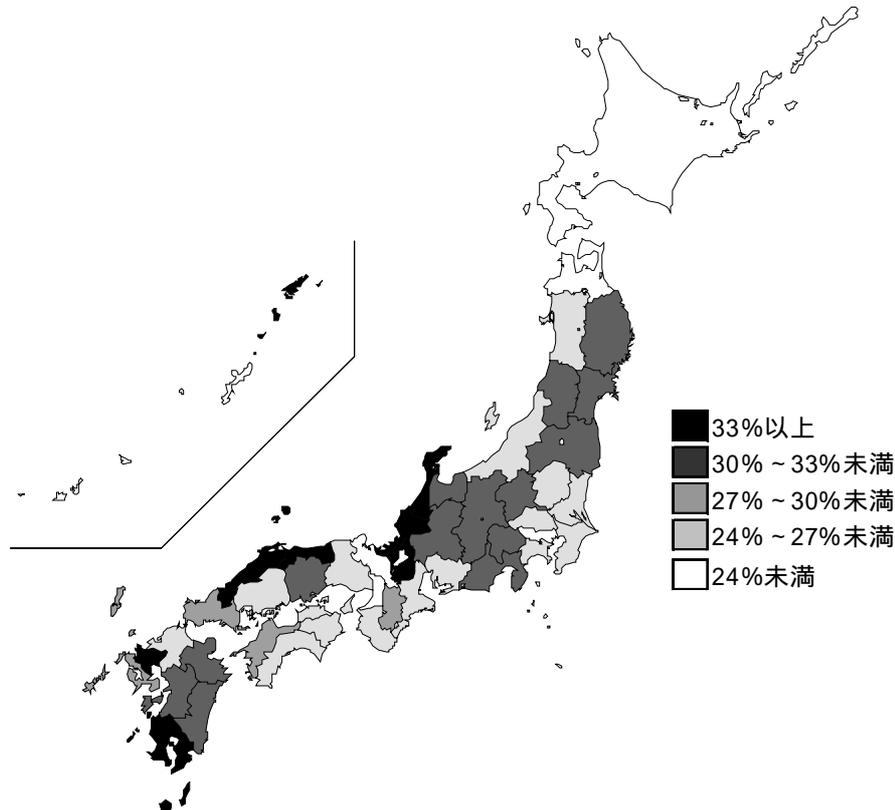
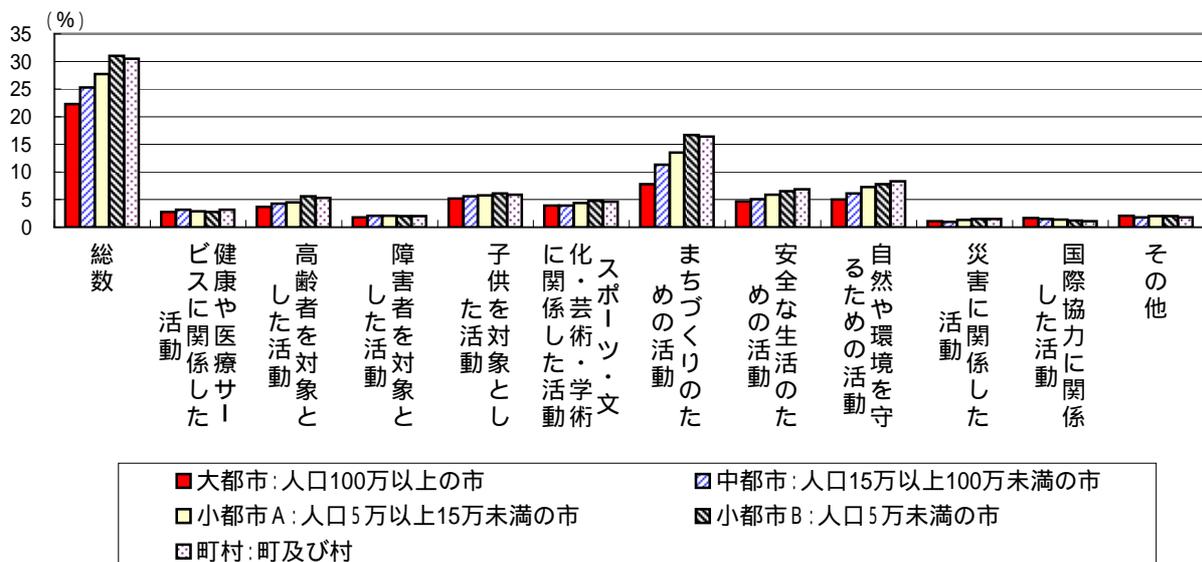


図5-10 都市階級、「ボランティア活動」の種類別行動者率



6 旅行・行楽

- (1) 1年間に「旅行・行楽」を行った人は8660万7千人，行動者率は76.2%で5年前より4.7ポイント低下

過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は8660万7千人で，行動者率は76.2%となっている。男女別にみると，男性が4128万人，女性が4532万7千人となっており，行動者率は男性が74.7%，女性が77.7%で，女性が男性より3.0ポイント高くなっている。

行動者率は平成13年に比べ4.7ポイント低下している。これを男女別にみると，男性が5.1ポイント低下，女性が4.1ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると，15～19歳から年齢が高くなるにつれて上昇し，35～39歳で84.2%と最も高くなり，40歳以上は年齢が高くなるにつれておおむね低下している。これを男女別にみると，75歳以上を除くすべての年齢階級で女性の方が高くなっている。（図6-1，図6-2）

図6-1 年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率（平成13年，18年）

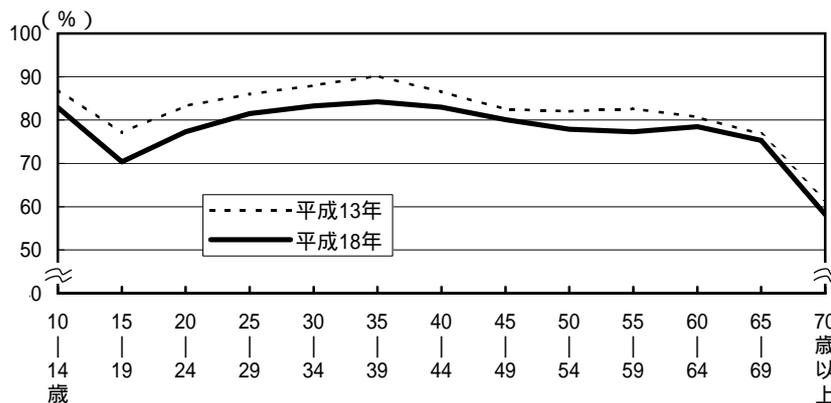
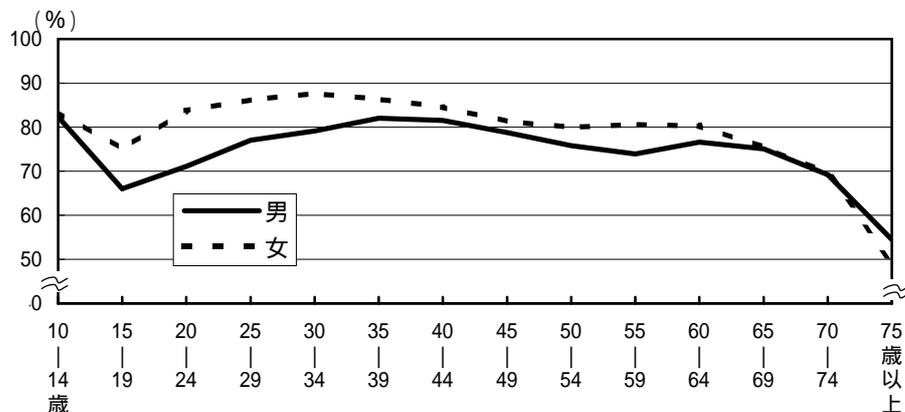


図6-2 男女，年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率



(2) 行動者率は「観光旅行（国内）」が49.6%、「観光旅行（海外）」は8.5%

「旅行・行楽」の種類別に行動者率をみると、「行楽（日帰り）」が60.0%、観光旅行では国内が49.6%、海外が8.5%となっている。これを男女別にみると、国内及び海外の「業務出張・研修・その他」を除き、すべての種類で女性の方が高くなっている。

平成13年と比べると、「行楽（日帰り）」が5.6ポイント低下、「観光旅行（国内）」が4.9ポイント低下などとなっており、「業務出張・研修・その他（海外）」を除くすべての種類で行動者率は低下している。（図6-3、図6-4）

図6-3 男女、「旅行・行楽」の種類別行動者率

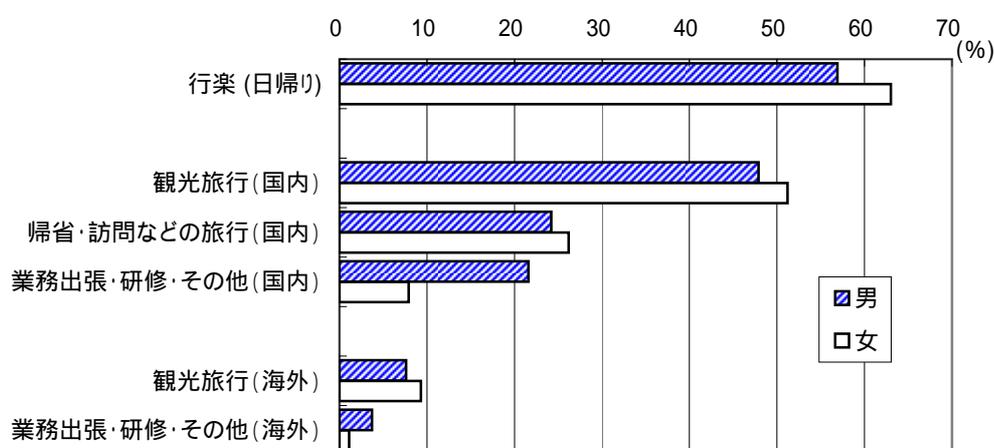
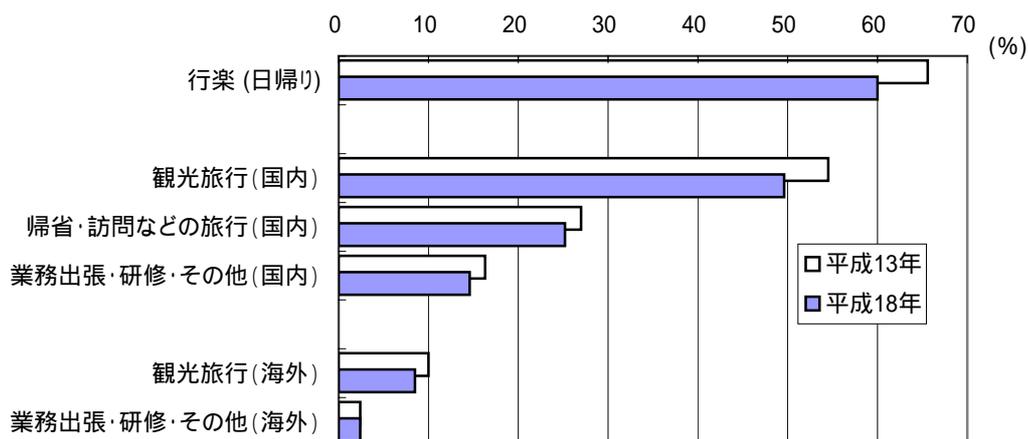


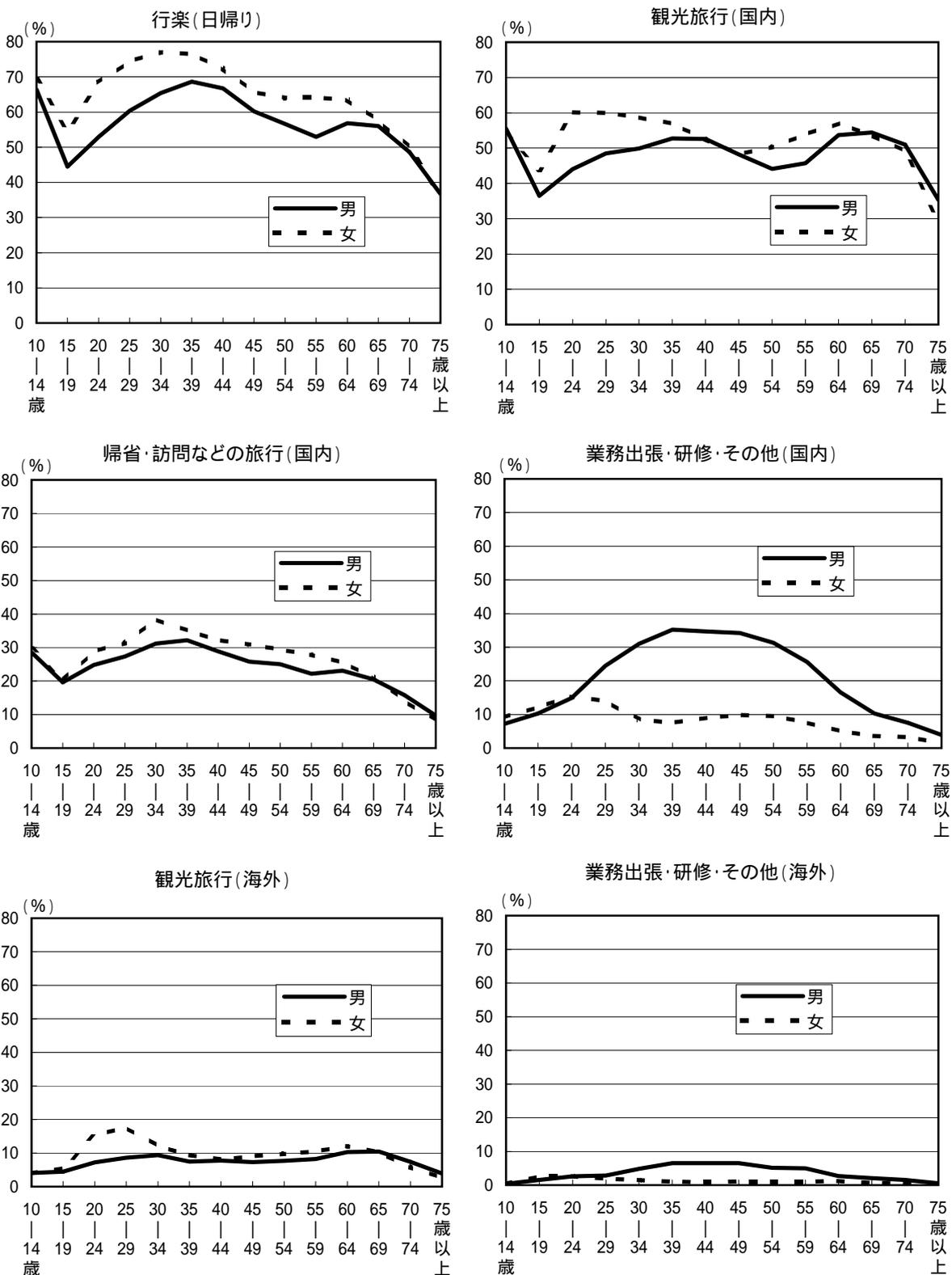
図6-4 「旅行・行楽」の種類別行動者率（平成13年，18年）



(3) 「観光旅行（海外）」の行動者率は、男性は65～69歳、女性は25～29歳が最も高い

「旅行・行楽」の種類別の行動者率を男女別にみると、「観光旅行（国内）」については、男性は10～14歳が最も高く、次いで65～69歳などとなっており、女性は20～24歳が最も高く、次いで25～29歳などとなっている。「観光旅行（海外）」については、男性は65～69歳が最も高く、女性は25～29歳が最も高くなっている。（図6-5）

図6-5 「旅行・行楽」の種類，男女，年齢階級別行動者率

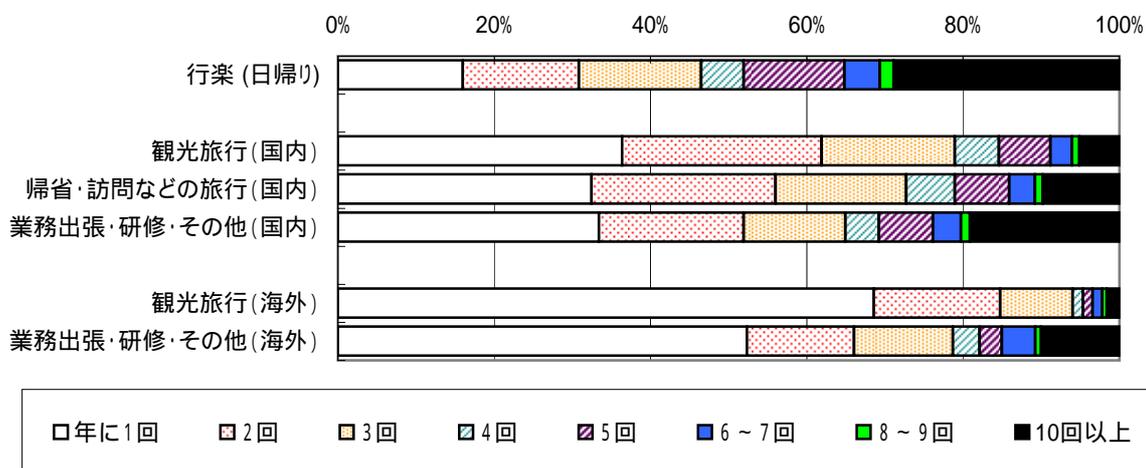


(4) 「行楽（日帰り）」は「年に10回以上」，ほかは「年に1回」が最も多い

「旅行・行楽」の種類別に行動者の頻度別構成比をみると，「行楽（日帰り）」は「年に10回以上」が最も多く，ほかは「年に1回」が最も多くなっている。

(図6-6)

図6-6 「旅行・行楽」の種類，頻度別行動者構成比



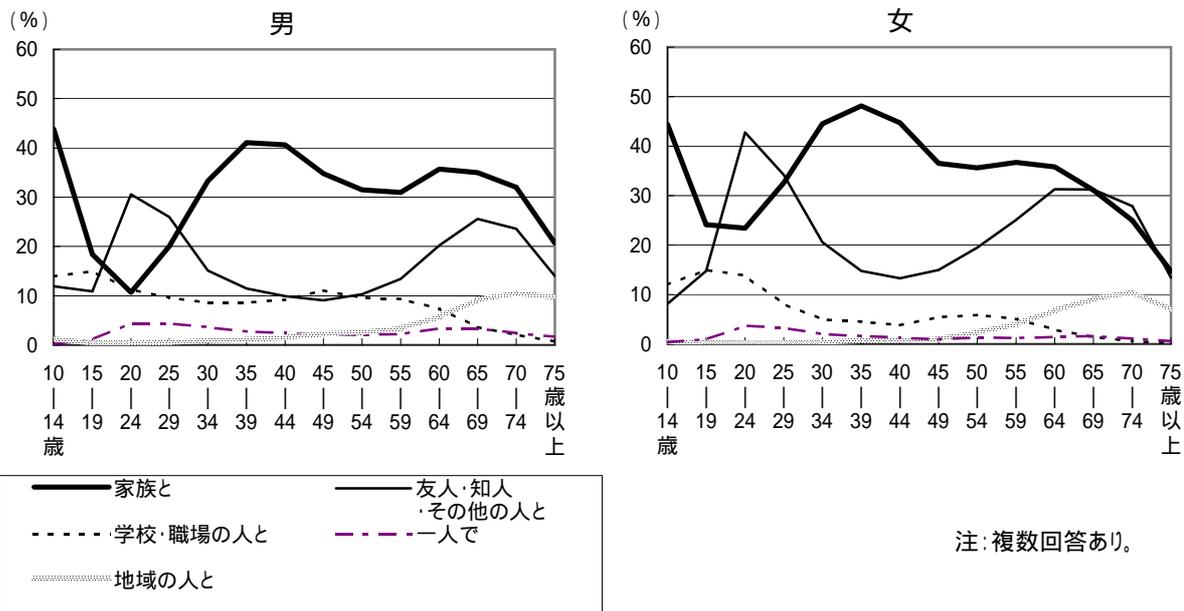
注：頻度不詳を除く。

(5) 「観光旅行（国内）」は，20歳台では「友人・知人・その他の人と」の行動者率が最も高い

「旅行・行楽」の行動者率を「共にした人」別にみると，「家族と」が57.0%と最も高く，次いで「友人・知人・その他の人と」が34.1%，「学校・職場の人と」が18.7%，「一人で」が14.6%，「地域の人と」が6.8%となっている。

「観光旅行（国内）」の年齢階級別行動者率を男女別にみると，20歳台の男女及び65歳以上75歳未満の年齢階級の女性で「友人・知人・その他の人と」の行動者率が最も高くなっている。ほかは「家族と」が最も高くなっている。(図6-7)

図6-7 男女，年齢階級，「共にした人」別「観光旅行（国内）」の行動者率



注：複数回答あり。